
人体屋敷

白祈

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

人体屋敷

【NZコード】

N4872Z

【作者名】

白祈

【あらすじ】

数十年前、その別荘では様々な人体実験が行われていた。非道としか言いようのないことをされた人々は、絶叫し、生々しい血に塗れ、別荘の周辺に住む人々を戦慄させていた。

だが、ある日を境にその声は聞こえなくなった。

多くの謎を残したまま、その別荘はとある人に買われる。

そこへ泊りにに来た四人の男女の結末とは…

暗い廊下は電気がつかない。（前書き）

山の奥深くの屋敷に泊りに行つた四人それぞれの哀しく、別々の結末をじつめ。

キャラの性別ですが、AとCは男、BとDは女です。

グロにかもしません(・_・・) (。・_・。)

暗い廊下は電気がつかない。

その日は、AとBとCとDで、楽しみにしていた日だった。しかし、長い間放置されていた別荘は、とても不気味な雰囲気を持つていた。

* * * * *

古びた扉は、ギイイイイイイという音をたてて開いた。中は真っ暗で、電気のスイッチなど見つかる気がしない。仕方が無いので、懐中電灯を付け、Cは電気のスイッチを探し、押したが、明かりがつくことは無かつた。

「おかしいな、前に来た時は、ついたんだが」

「あはは、C君が前に来た時って、子供の頃でしょ？それ以来来てないなら、つかないのも当然じゃない」

Cの独り言にBが答えた。

一步、また一步と歩を進める度に、床が軋み、頬りない音をたてる。外は雨が降つており、屋敷の中は少し肌寒かった。

「お、やつたじやんか、リビングは電気ついてるぜ？」

「本當だ！良かつた、真つ暗じやちょっと嫌だつたからなー」

Dがくすくすと笑い始める。Aも笑う。その笑いが広がり、やや緊張気味だった雰囲は和んできた。

不意に、Cが思い出したように喋り始めた。

「君たち、この屋敷の噂話を知っているかい」

Bはきょとんとした顔で、次いで身を乗り出し、興味津々のいつた様子で話しの続きを待つた。

「ね、ねえ…。私、怖いよ。Bちゃんは怖い話し平氣かもしれないけど、私は駄目なの」

「もう、Dさんは怖がりねえ！大丈夫よ、まだ怖い話しかもわからぬいし」

「Dには悪いけど、俺も話しあ気になるな」「でしょーーー？」

「じゃあ続けるとしようか。昔、僕らが生まれるずっと前。ここでは、とある人体実験が行われていた。生身の人間の目玉をくり抜き、生きたまま牢獄へ閉じ込め、少しずつ毒虫を入れていつたりした。それはもう、地獄としか言いようがないものだったそうだ。血まみれで、絶叫する大量の人々…。しかし、ある日突然、その声が途絶えた。近所の人々は皆、てっきり実験体が全員死んだのかと思い、次の実験体は誰になるかと、日々震えた。だが、もう実験が始まることはなかつた」

「な、なんで？」

「それは……」

Cはもつたいたぶつて、沈黙した。そして再び口を開きかけた瞬間、軽快だがどこか外れた調子のメロディーが流れた。それは、Aの携帯の着信音だった。

「おっと、俺のメール…………っー？」

「どうしたの、A君」

「E、このメール、見てくれよ」

【許さない、捕まえてやる。

今更逃げられるとは思うなよ。

まずはお前からだ、復讐してやる。

安心しろ、

俺たちみたいな死に方はさせない。

もつともつともつと、痛ぶつて、

酷いことにしてやるよ】

『……………』

四人は戦慄した。しかし、一番はやく立ち直ったのは、意外にもDだった。

「…………逃げなきゃーまだA君しか狙われてない、まだ私は助かる！」

だから、だから言ったのに！あなたたちが勝手に…」

「待てよ、おい、D！一人は危険だ！」

しかしDには誰の声も届かなかつた。そのままリビングから懐中電灯も持たずにして出て行つてしまつた。

「おい、B。連れ戻してこいよ」

「い、嫌よ！C、あんたが行つて！」

「仕方が無いな…」

無言でCがドアノブに手をかけ、部屋から出ようとした。が、開かない。

「なんでだよ！？」

Aは焦り、Cを突き飛ばし扉を叩く。しかし、開かない。

「おいおい、A？あまり騒ぐと、メールの送り主にバレるかもしねいぞ？」

Cはにやにやと笑いを浮かべる。そして、もう一つの扉があるから、遠回りになつてしまふがそこから行く、と告げた。

* * * * *

そこは暗かつた。リビング以外のほとんどの電気がつかないようだ。Cは幼少期に一度ここへ来たが、玄関に上がつただけですぐに帰つてしまつたため、構造がどうなつているかはあまり知らない。しかし、無知、という訳では無かつた。

まずはここから裏口へと出なければならないが、その間に通る部屋が確か、たくさんあつたはずだ。

長い廊下を歩き抜け、ふつと寒気がして振り返る。だが当然、誰もいるはずがない。

随分重い扉を開け、物置状態の部屋へ入る。懐中電灯で辺りを照らしてみる。

「……………！？」

そこには……

* * * * *

暗い廊下は電気がつかない。（後書き）

読みたことコメントをしてくれの方がいるなら続きを書いつかなかな……

申し訳ありません、中途半端な文章で終わってしまって……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4872z/>

人体屋敷

2011年12月16日16時47分発行